

第1回 中海・宍道湖圏域道路整備勉強会

日時：令和2年11月20日（金）10時30分～

場所：島根県民会館 3階 大会議室

議事次第

1. 開会

2. 議題
 - (1) 勉強会設立の背景と趣意
 - (2) 規約（案）について
 - (3) 中海・宍道湖圏域の概要
 - (4) 今後の進め方

3. 閉会

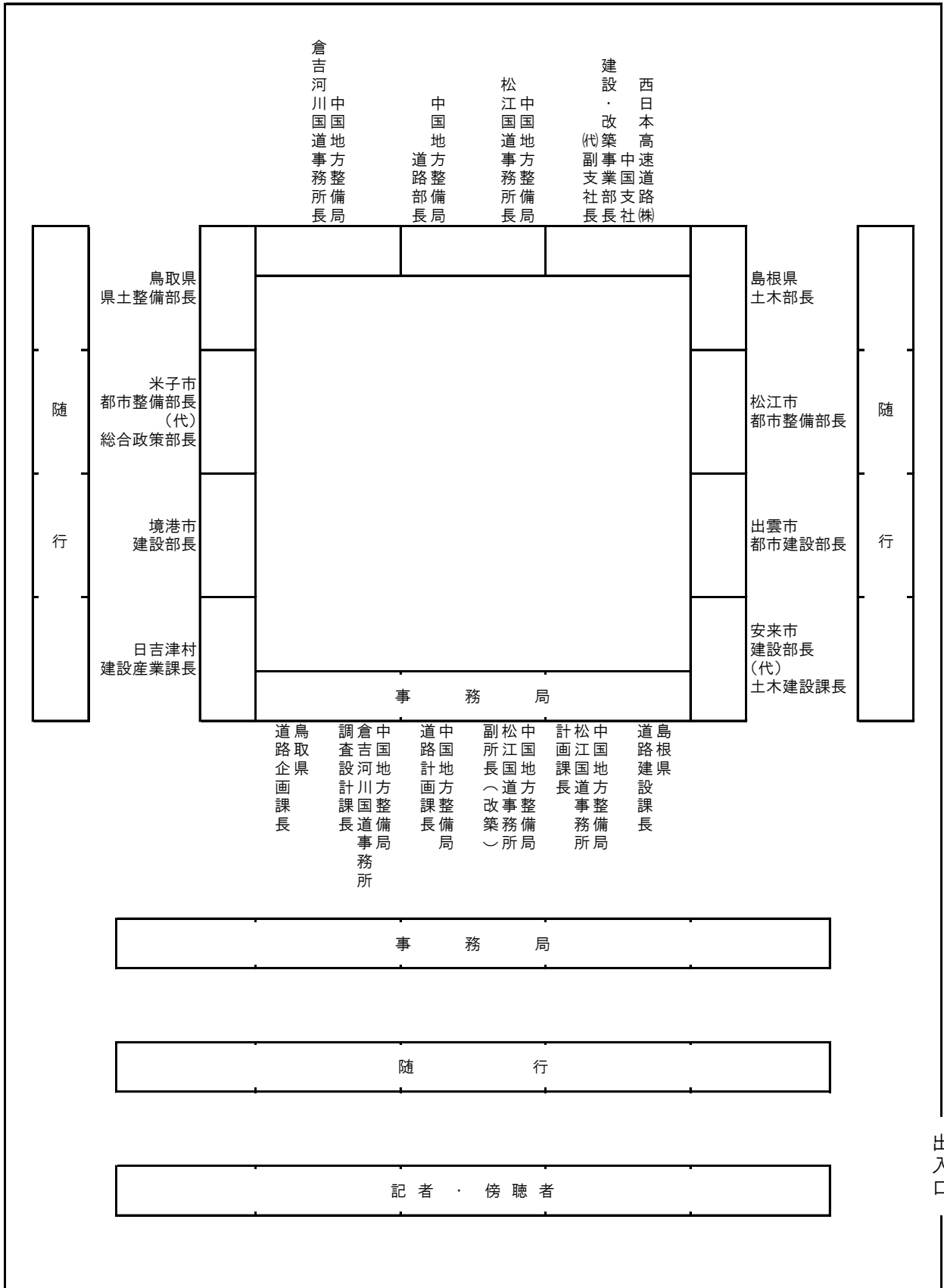
《配付資料》

資料1：設立趣意書

資料2：規約（案）

資料3：中海・宍道湖圏域の概要

配席図



第1回 中海・宍道湖圏域道路整備勉強会 出席者名簿

協議会委員 所属	役職	氏名	備考
国土交通省 中国地方整備局 道路部	道路部長	松浦 利之	
国土交通省 中国地方整備局 倉吉河川国道事務所	事務所長	山田 明	
国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所	事務所長	藤田 修	
鳥取県 県土整備部	県土整備部長	草野 慎一	
島根県 土木部	土木部長	真田 晃宏	
米子市 都市整備部	都市整備部長	隠樹 千佳良	(代理出席) 総合政策部長 八幡 泰治
境港市 建設部	建設部長	灘 英樹	
日吉津村 建設産業課	建設産業課長	益田 英則	
松江市 都市整備部	都市整備部長	安達 良三	
出雲市 都市建設部	都市建設部長	金山 隆司	
安来市 建設部	建設部長	糸原 一志	(代理出席) 土木建設課長 二岡 敦彦
西日本高速道路株式会社 中国支社	建設・改築事業部長	桑野 修	(代理出席) 副支社長 久米 富美男

中海・宍道湖圏域道路整備勉強会

設 立 趣 意 書

中海・宍道湖圏域は、日本海側の主要都市圏である、新潟、金沢、福井に次ぐ約60万人の人口が集積しており、製造業をはじめとした各種産業の集積地として、鳥取県及び島根県の発展を牽引し、環日本海諸国・アジア諸国などとの交流や地方創生をリードする地域である。

また、出雲大社や水木しげるロードなど数多くの文化資源、観光資源に恵まれているとともに、境港への大型クルーズ船の寄港などによるインバウンドを含めた圏域として観光入り込み客や交流人口の増大が期待される地域である。

しかしながら、中海・宍道湖圏域の道路交通は、商業施設や物流施設などが集積している市街地を中心に交通が集中し、慢性的な交通混雑や交通事故が発生している。そして、高速道路や港湾・空港などの交通拠点へのアクセス性が低いなどの課題により、経済活動や観光振興に対する広域交流の機能が果たせていない状況となっている。

また、近年では、自然災害が激甚・頻発化しており、中国地方でも平成30年7月豪雨による甚大な被害が発生した。令和2年度には、九州地方を中心に豪雨が発生するなど、全国各地で地震、豪雨、雪害などの自然災害が多発しており、災害からの迅速な復旧と、早期の日常生活・経済活動の再開を見据え、被災後もすぐに機能する道路ネットワークの整備が求められている。

このような背景から、中海・宍道湖圏域における各地域の発展を目指して、中海・宍道湖圏域にとって真に必要な将来の道路ネットワークのあり方について、あらゆる角度から幅広い検討を行うため「中海・宍道湖圏域道路整備勉強会」を設立するものである。

中海・宍道湖圏域道路整備勉強会規約（案）

（名称）

第1条 この会議は、中海・宍道湖圏域道路整備勉強会（以下「本勉強会」という。）と称する。

（目的）

第2条 本勉強会は、中海・宍道湖圏域における広域的な交通流動を含めた道路整備の方向性について検討を実施することを目的とする。

（組織・運営）

第3条 本勉強会は、別紙1に掲げる委員をもって構成する。なお、必要に応じて、本勉強会の承諾を得て委員を追加することができる。

- 2 本勉強会に会長を置き、委員の互選により選出する。
- 3 会長は、本勉強会を代表し、会務を総括する。
- 4 会長は、必要に応じて、本勉強会を招集し、その運営、進行にあたるものとする。
- 5 会長に事故があった場合は、あらかじめ会長が指名した者が会長の職務を代行する。
- 6 会長は、必要に応じて、委員以外の者に出席を要請し、意見の陳述、説明その他の必要な協力を求めることができる。

（委員の責務）

第4条 委員は、公正かつ公平に意見を述べなければならない。

- 2 委員は、直接又は間接を問わず、特定の利害関係者の意見を代弁してはならない。
- 3 委員は、本勉強会で知り得た情報を漏らしてはならない。委員の職を退いた後も同様とする。ただし、国土交通省、鳥取県、島根県、米子市、境港市、日吉津村、安来市、松江市、出雲市及び西日本高速道路株式会社が、公表した情報又は認めた場合については、この限りではない。

（事務局）

第5条 本勉強会の庶務を処理するため、事務局を国土交通省中国地方整備局道路部道路計画課、倉吉河川国道事務所調査設計課、松江国道事務所計画課、鳥取県県土整備部道路企画課及び島根県土木部道路建設課に置く。

事務局は、会議の円滑な運営にあたり、議事録を整理するものとする。

(部会)

第6条 本勉強会は、必要に応じて、特定の事項、課題を調査研究し、調整、協議を行うための部会等を設置することが出来る。

2 部会等の組織、運営については、別途規約を定めるものとする。

(規約の改正)

第7条 本規約の改正は、本勉強会の決議によらなければならない。

(雑則)

第8条 この規約に定めるもののほか、本勉強会の運営に必要な事項は会長が定める。

附 則

この規約は、令和2年(2020年)11月20日から施行する。

中海・宍道湖圏域道路整備勉強会 委員（第3条関係）

所属・役職
国土交通省 中国地方整備局 道路部長
国土交通省 中国地方整備局 倉吉河川国道事務所長
国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所長
鳥取県 県土整備部長
島根県 土木部長
米子市 都市整備部長
境港市 建設部長
日吉津村 建設産業課長
松江市 都市整備部長
出雲市 都市建設部長
安来市 建設部長
西日本高速道路株式会社 建設・改築事業部長

事務局	国土交通省 中国地方整備局 道路部 道路計画課
	国土交通省 倉吉河川国道事務所 調査設計課
	国土交通省 松江国道事務所 計画課
	鳥取県 県土整備部 道路企画課
	島根県 土木部 道路建設課

中海・宍道湖圏域の概要

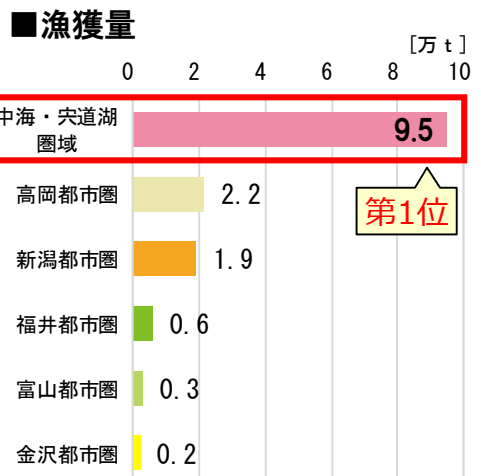
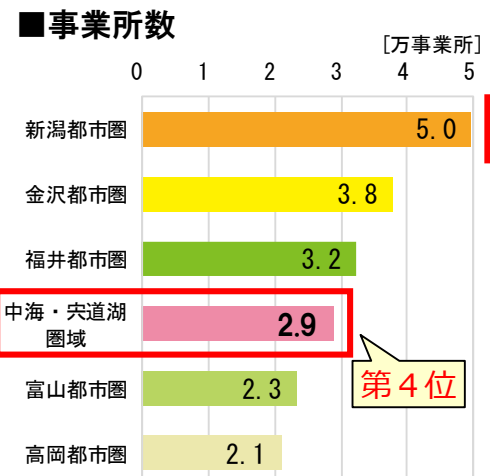
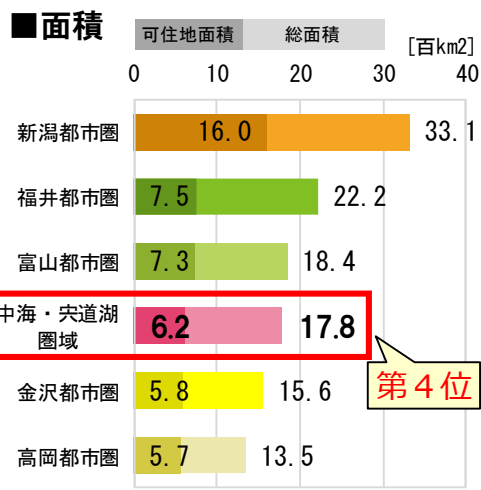
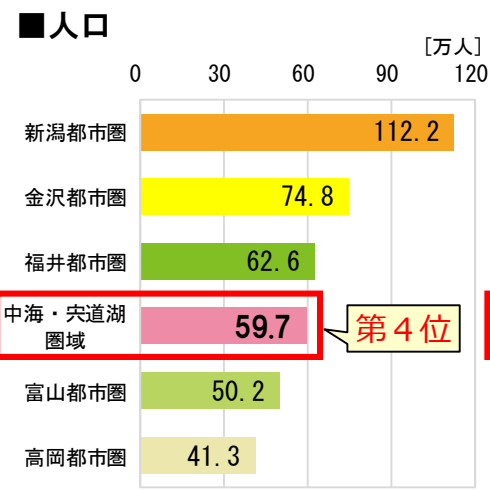
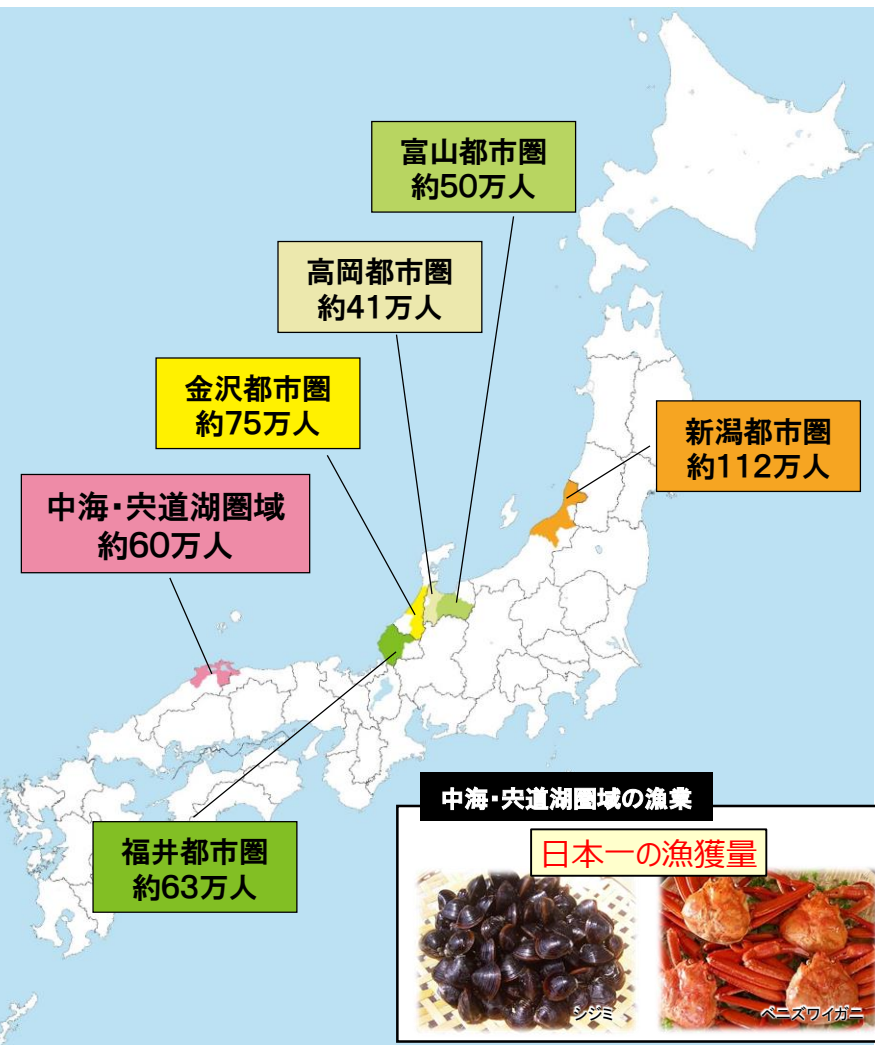
令和2年11月20日

- | | | |
|-----------------------------|-------|----|
| 1. 中海・宍道湖における現状と課題 | ・ ・ ・ | 2 |
| 2. 地域の将来像について | ・ ・ ・ | 16 |
| 3. 中海・宍道湖圏域の道路ネットワークのあり方（案） | ・ ・ ・ | 22 |

1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-1) 中海・宍道湖圏域の状況①

- 中海・宍道湖圏域の人口は約60万人であり、総面積、可住地面積及び事業所において日本海側の主要都市圏の中で第4位の規模を誇る西日本有数の主要都市圏である。
- 特に漁獲量は、日本海での漁業だけでなく、中海・宍道湖の内水面漁業も盛んであり、日本海側の主要都市圏で第1位となっており、シジミやカニの漁獲量は、日本一である。



資料/H27国勢調査(総務省)
※各圏域の構成市町村は「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」より

資料/平成28年経済センサス-活動調査

資料/H30海面漁業生産統計調査

1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-2) 中海・宍道湖圏域の状況②

- 当該圏域は、人口・総生産共に鳥取・島根県の約5割を占め、数多くの観光資源や複数の空港・港湾を有しており、インバウンドを含めた観光客による交流人口の増加が期待されている等、山陰地方の発展を牽引するポテンシャルを秘めている。
- しかし、近年の頻発化・激甚化する災害やコロナ禍等における社会情勢の変化は、地域に様々な影響を与つつある。
- また、圏域内の高規格道路は、ミッシングリンクの存在や、開通済区間においても暫定2車線が主であり、有料・無料区間が混在している状況である。



※鳥根県：鳥根県観光動態調査結果、水木しげるロード：さかいみさとポータル 皆生温泉：温泉地入湯客数(鳥取県HP)より

資料/H27国勢調査

資料/連携中枢都市圏の形成の動き(総務省)

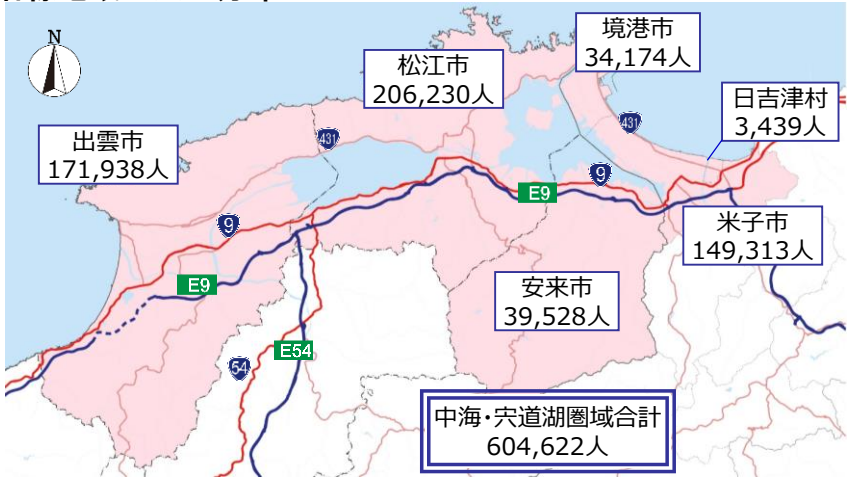
資料/平成29年度鳥取県市町村民経済計算 鳥根県市町村民経済計算(平成29年度)

1. 中海・宍道湖における現状と課題

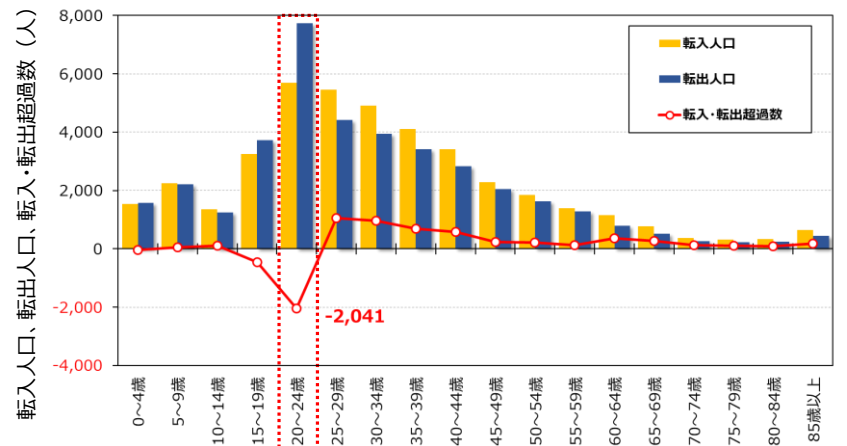
1-3)人口

- 中海・宍道湖圏域の人口推移は、全国平均、中国地方平均、日本海都市圏No1の新潟都市圏と同様に、緩やかに減少することが想定されており、特に20代前半の転出が顕著である。
- 高齢化率も全国平均、中国地方平均、新潟都市圏の傾向と同様に増加することが想定されており、圏域の生産年齢人口の減少が懸念される。

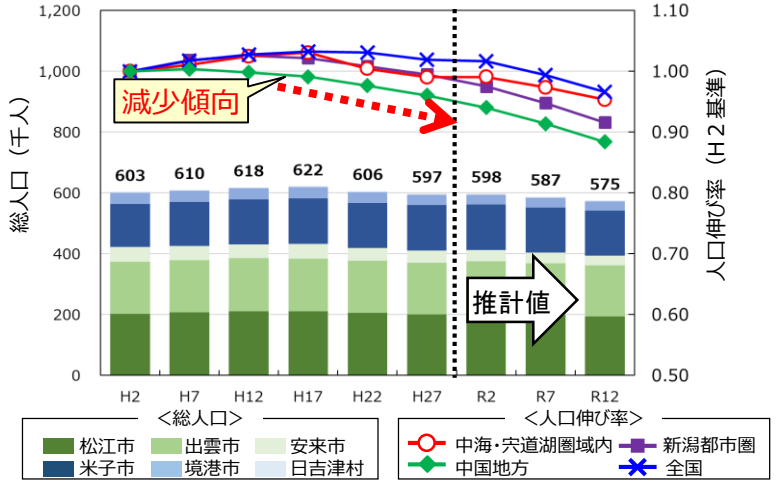
■沿線地域の人口分布



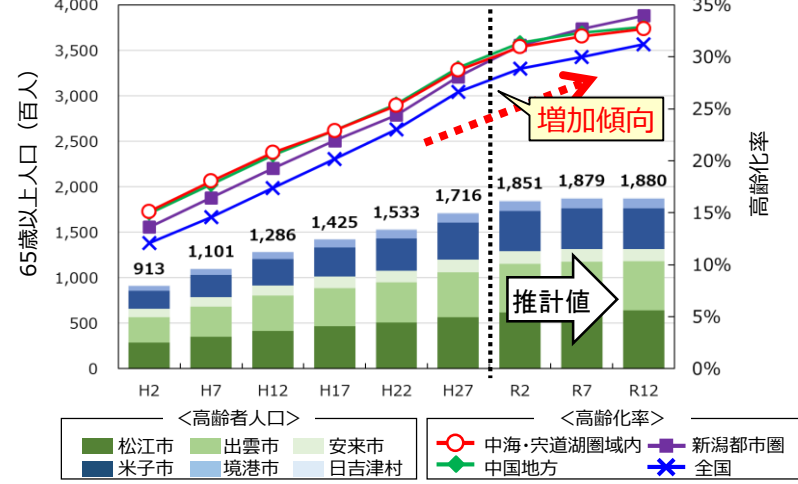
■転入・転出人口〔中海・宍道湖圏域内の市村の転入・転出人口(H22⇒H27)〕



■人口推移〔中海・宍道湖圏域内の市村と全国の人口推移〕



■高齢化率推移〔中海・宍道湖圏域内の市村と全国の高齢化率推移〕

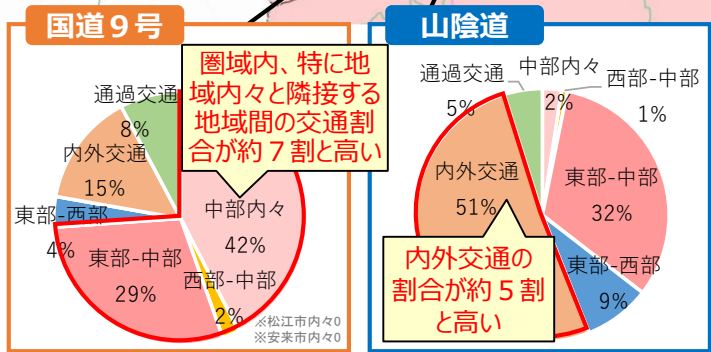
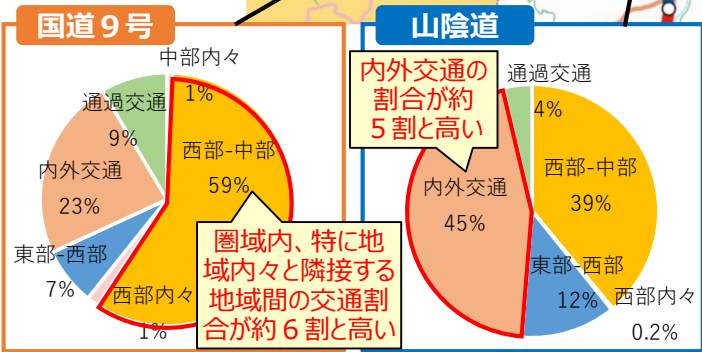
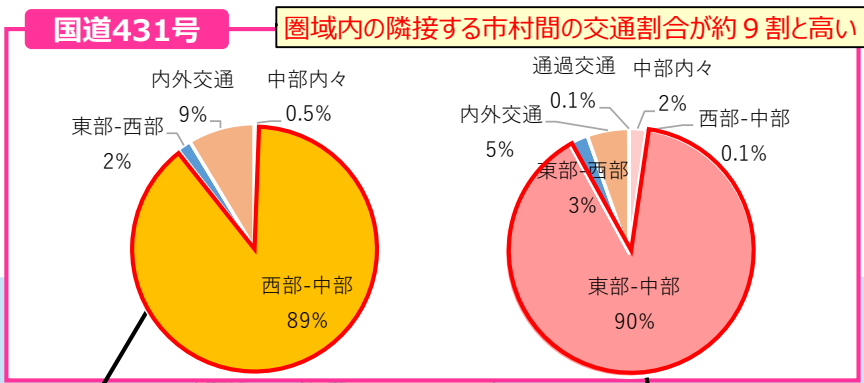
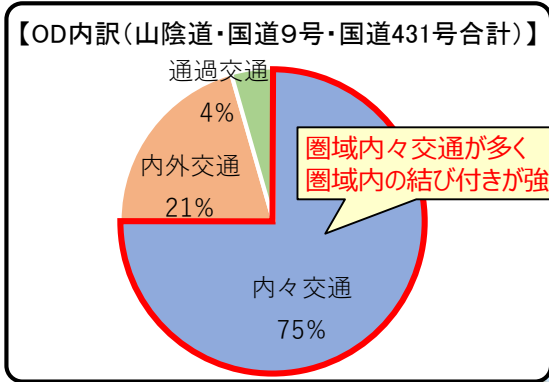


1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-4) 地域の繋がり

- 当該圏域内における交通流動は、圏域内々交通の割合が約8割と高く、圏域内の結び付きが非常に強い。
- 一方で、山陰道では圏域内外交通の割合が約5割を占めており、各路線において交通の質が異なっている状況にある。

■圏域内主要幹線道路のOD内訳



資料/OD内訳: H22センサスペースH27交通量推計結果
 ※内々: 中海・宍道湖圏域内
 内外: 中海・宍道湖圏域⇄その他地域
 通過: その他地域⇄その他地域

中海・宍道湖圏域
 出雲市、松江市、安来市、米子市、境港市、日吉津村

※西部: 出雲市 中部: 松江市、安来市
 東部: 米子市、境港市、日吉津村

資料/交通量: 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査

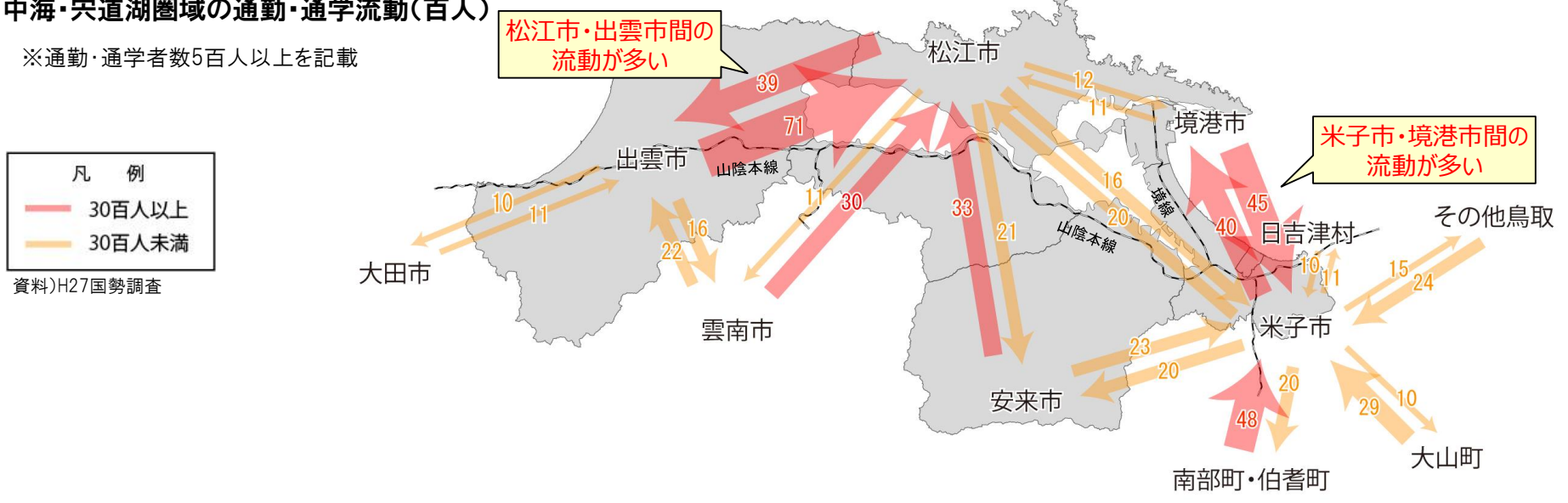
1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-5) 通勤・通学流動

- 当該圏域内では、約8割に近い人が圏域内で通勤・通学を行っており、圏域内の結び付きが非常に強い。
- 一方で、通勤・通学時における鉄道の利用割合は約1割と低くなっており、8割を超える自家用車の利用状況から移動手段として自動車に依存した地域となっている。

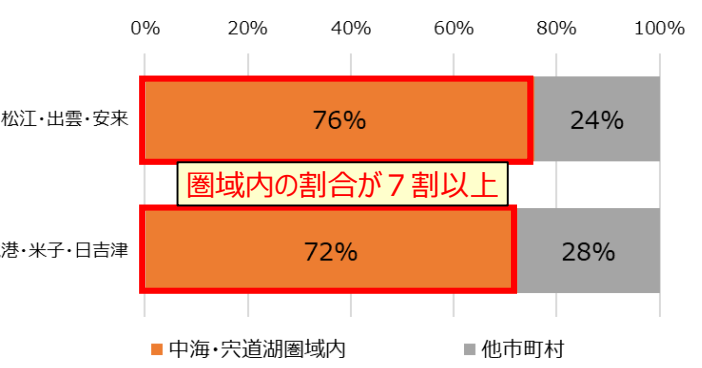
■中海・宍道湖圏域の通勤・通学流動(百人)

※通勤・通学者数500人以上を記載

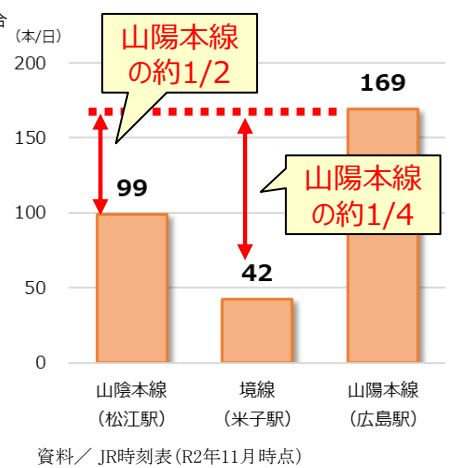


■中海・宍道湖圏域への通勤・通学割合

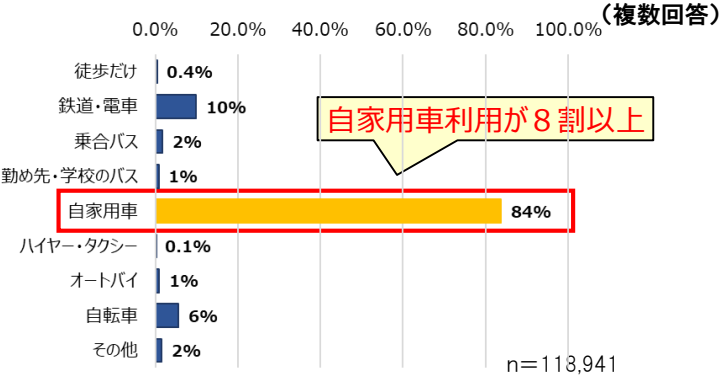
※他市町村への通勤・通学者のうち、中海・宍道湖圏域の各市村への通勤・通学者の割合



■JR運行本数の比較(上下合計)



■中海・宍道湖圏域の通勤・通学時の利用交通手段

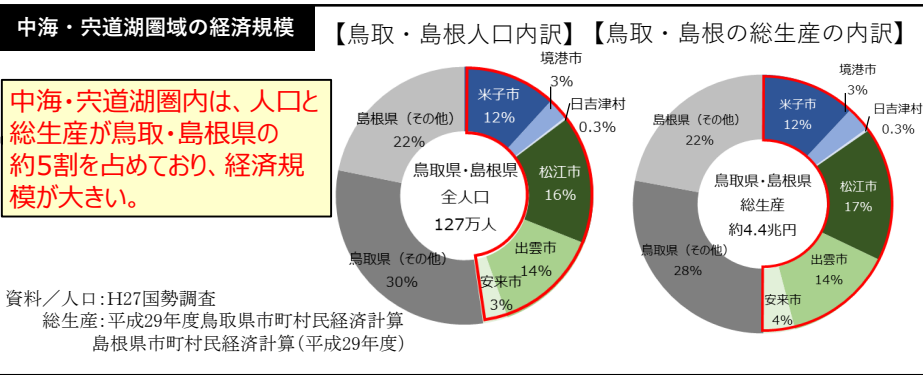


※中海・宍道湖圏域の各市村に常住する他市町村への通勤・通学者および中海・宍道湖圏域の各市村に従業・通学する他市町村の常住者の交通手段を集計
 資料 / H22国勢調査 (H27国勢調査では通勤通学手段の調査は実施されていない)

1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-6) 地域の産業構造①

○中海・宍道湖圏域の経済規模は、鳥取・島根県の約5割を占めており、山陰地方有数の規模となっている。
 ○政治・経済・交通等の拠点となっている松江市、主要な観光地である出雲大社を有し農業・製造業も盛んな出雲市、金属製造業が集積する安来市、山陰の商都と称される米子市、漁業と観光で有名な境港市、製紙工場と大規模商業施設がある日吉津村といった、異なる特徴を有する都市の集合体であり、地域が連携することにより更なる活力の創出が期待される。



■松江市 ~水と緑、歴史と文化を大切にすまち~

- 鳥根県の県庁所在地であり、政治・経済・交通等の拠点。
- 松江城を中心に城下町風情が残り、豊かな自然と歴史を有する。
- 京都・奈良と並ぶ「国際文化観光都市」である。
- 松江藩7代藩主松平不昧公により広められた茶の湯文化は、今なお市民生活に息づく。

松江城

■境港市 ~さかなと鬼太郎のまち~

- 「境港」はカニの水揚げ日本一である。
- 「日本海側拠点港・境港」、韓国への国際定期便が就航する「米子鬼太郎空港」といった海と空の港を有し、当該圏域だけでなく西日本と海外を結ぶ交流拠点である。
- 「水木しげるロード」は、年間300万人の観光客が訪れる人気スポットである。
- 全国的にも大変貴重な「伯州綿」の産地。

ベニスワイガニ

写真/境港市観光ガイドHPより

■出雲市 ~げんき、やさしさ、しあわせあふれる縁結びのまち~

- 出雲大社をはじめとした神話の国を象徴する歴史・文化遺産を有する。
- 鳥根県随一の農業地帯であるとともに、出雲村田製作所が立地しており、製造品出荷額は鳥根県全体の約4割を占め、各産業のバランスが調和した都市である。
- 出雲縁結び空港など交通拠点を有する。

出雲大社

■米子市 ~自然と人が共生するにぎわいのまち~

- 明治時代からつづく鉄道網の拠点であり、現在でも米子自動車道、米子鬼太郎空港を擁する山陰の交通拠点である。
- 古くから「山陰の商都」と称される商業の町である。
- 特産の白ネギは西日本一の出荷量を誇る。

白ネギ

写真/鳥取県HPより

■安来市 ~安来節とハガネのまち~

- 日立金属(株)安来工場があり、協力会社や取引企業など金属関連製造業が集積する。
- 「どじょうすくい踊り」で有名な民謡『安来節』をはじめ、伝統芸能など多彩な文化を有する。

日立金属(株)安来工場

写真/島根県HPより

■日吉津村 ~ひとのえがおづくりができる村~

- 王子製紙米子工場や山陰最大の店舗面積を誇るイオン日吉津SCが立地する。
- 村内人口は増加傾向にあり、山陰地方で唯一将来人口の増加を推計されている。

【日吉津村の人口推移】

Year	Population
H2	2,830
H7	2,760
H12	2,971
H17	3,073
H22	3,339
H27	3,439
R2	3,499
R7	3,537
R12	3,560

資料/中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンより抜粋(日吉津村除く)、日吉津村HP

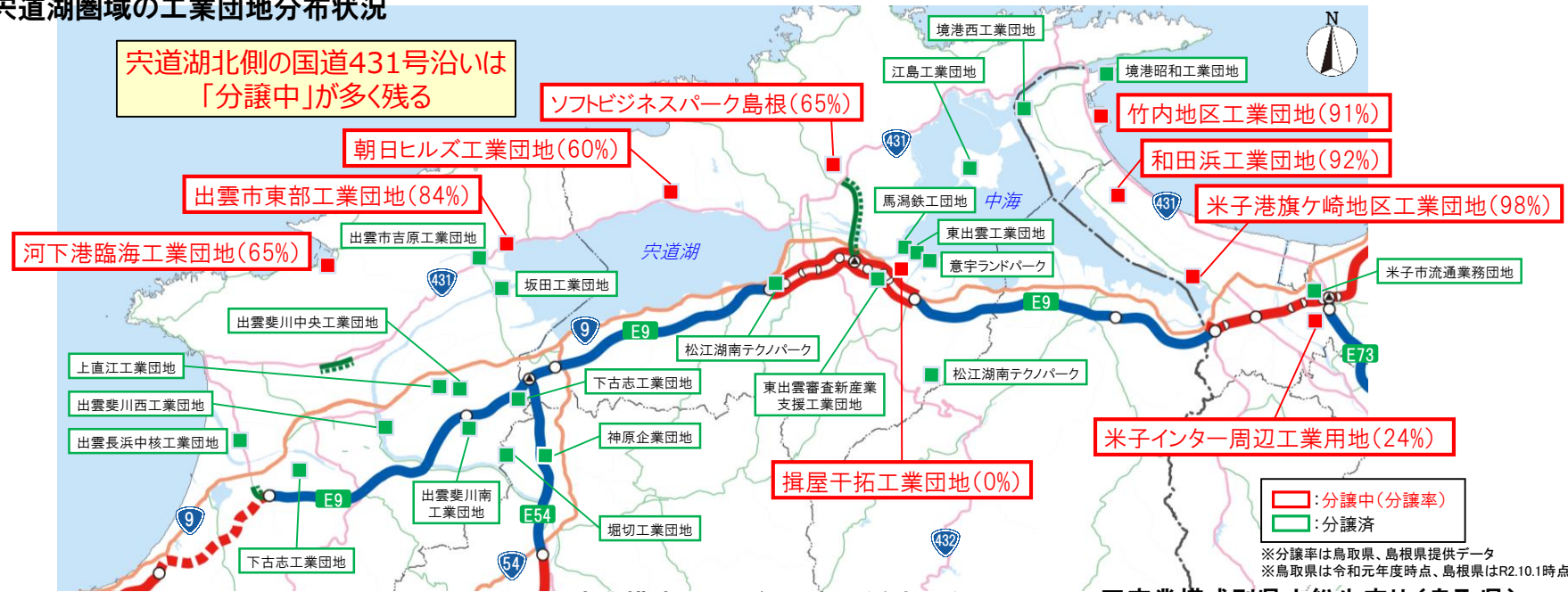
1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-6) 地域の産業構造②

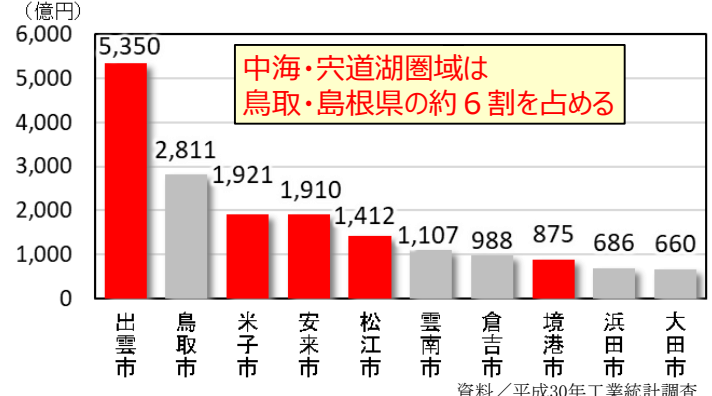
○中海・宍道湖圏域には多数の工業団地が立地しており、国道9号・山陰道沿線の工業団地は既に分譲済みとなっている一方で、宍道湖北側の国道431号沿線の工業団地は、高規格道路へのアクセス性が低いことなどから大半が現在も分譲中となっており、中海・宍道湖の南北で分譲状況に差が生じている。

○工業団地への企業集積が進み、産業や地域が連携することで、更なる発展が期待される。

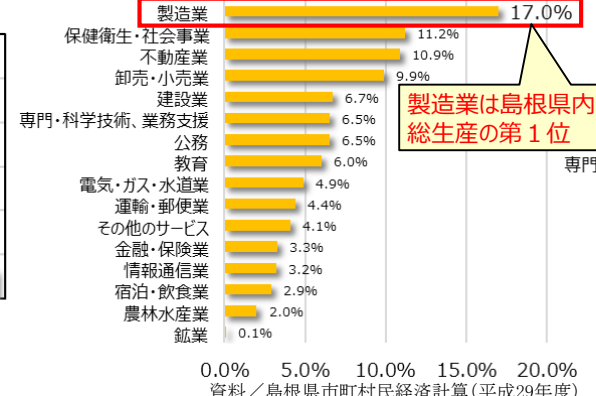
■中海・宍道湖圏域の工業団地分布状況



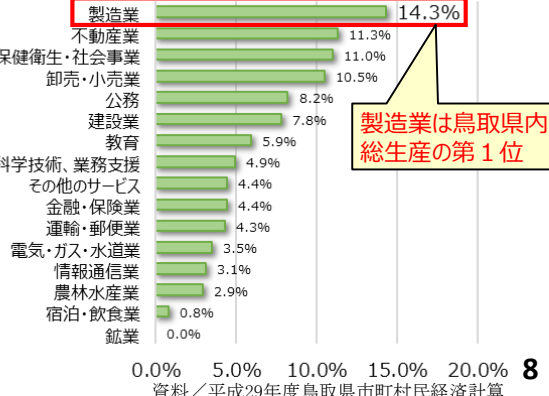
■製造品出荷額等(鳥取・島根県内上位10位)



■産業構成別県内総生産比(島根県)



■産業構成別県内総生産比(鳥取県)



1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-6) 地域の産業構造③

- 境港は鳥取・島根県に跨る重要港湾であり、拠点性が年々向上しており、周辺への企業進出も増加するなど、外貿コンテナ取扱量は10年で約2倍となっている。
- 境港市発着の物流は、圏域内の輸送が5割以上と多く、加えて、境港は災害時の物資受入港に指定されており、災害時の確実な物資輸送のため、圏域内の連絡機能を強化する必要性がある。

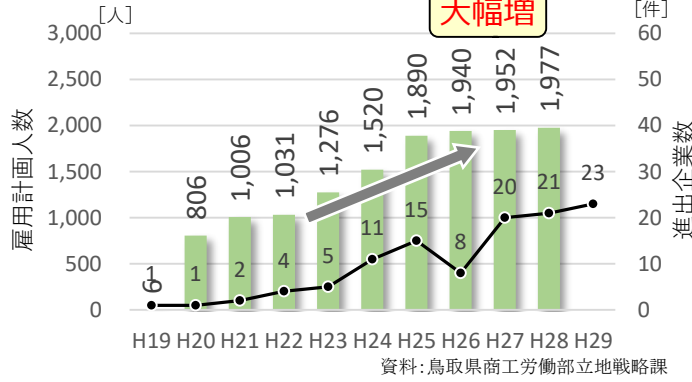
■境港の拠点性の高まりと役割

H16	山陰地域初の国際コンテナターミナル供用開始
H21	環日本海側拠点を結ぶ国際定期フェリーの就航
H22	重点港湾指定
H23	日本海側拠点港(国際海上コンテナ・外航クルーズ・原木)に指定 リサイクルポートに指定
H27	境港流通プラットフォーム協議会が設立
H28	外港中野地区国際物流ターミナル 供用開始
R2	外港竹内南地区複合一貫ターミナル 供用
R4	高度衛生管理型市場 完成予定 バイオマス新規建設計画

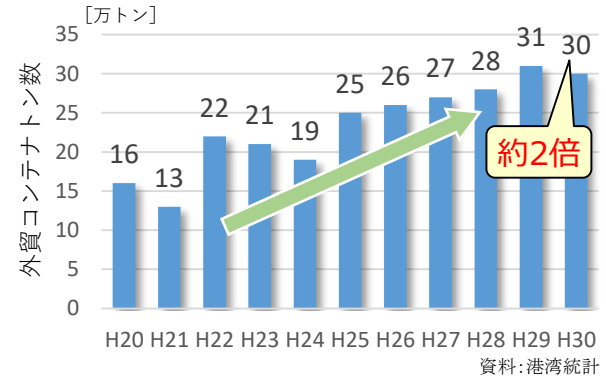
- 日本海側拠点港(平成23年選定)
国際海上コンテナ、外航クルーズ、原木
- リサイクルポート(平成23年指定)
中国地方では境港、宇部港、徳山下松港の3港



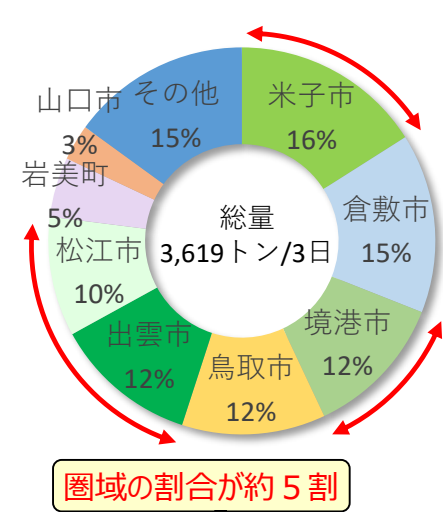
■企業進出状況



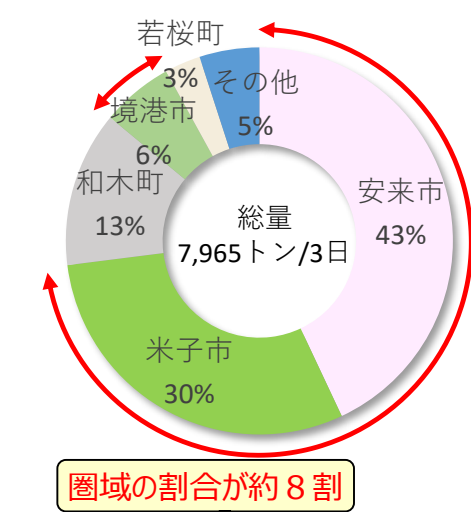
■境港外貿コンテナ取扱量推移



■境港市発の物流 中国地方の地域別着地割合



■境港市着の物流 中国地方の地域別発地割合



資料:H27物流センサス

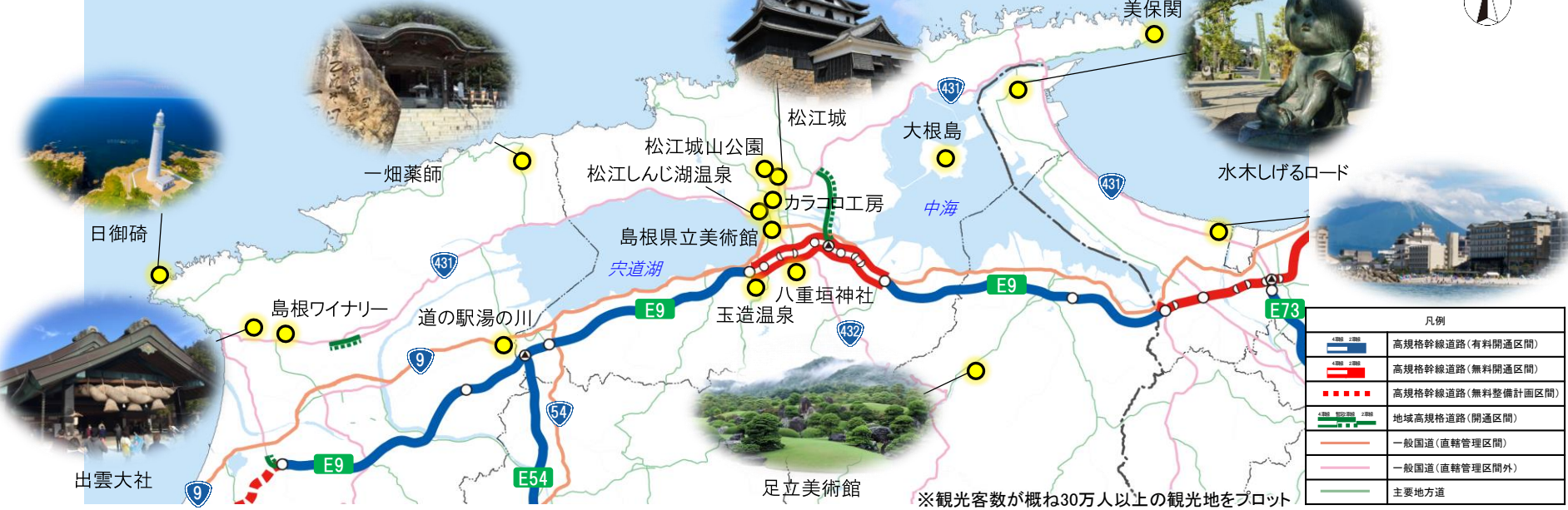
資料:H27物流センサス

1. 中海・宍道湖における現状と課題

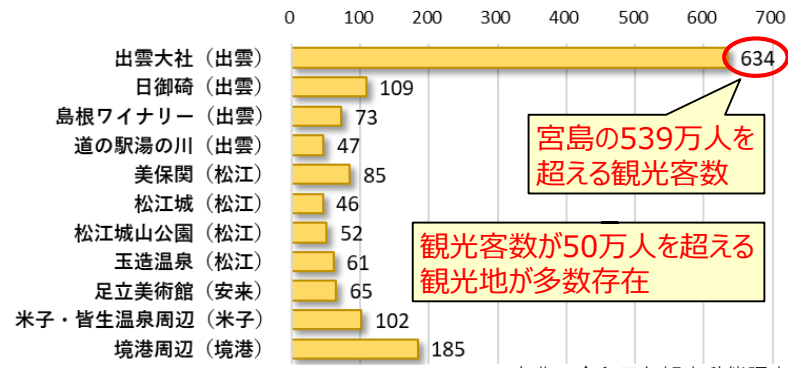
1-7) 観光①

- 中国地方でトップクラスの観光客数を誇る出雲大社を筆頭に、中海・宍道湖圏域には年間50万人を超える観光客が訪れる観光地が広域に渡り点在しており、観光客の約7割を県外客が占めている。
- 新型コロナウイルスの影響により圏域内の観光客数は大幅に減少しており、観光客数の回復に向けて圏域内の各地が連携し周遊できるような高規格道路軸の強化が必要である。

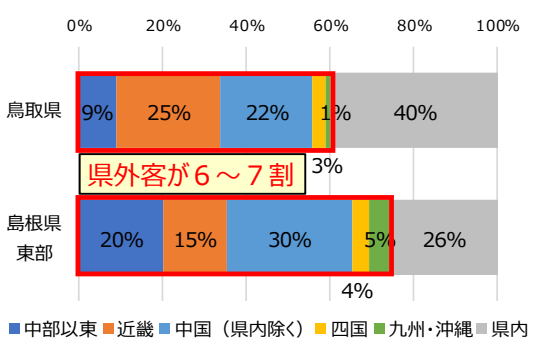
■中海・宍道湖圏域の主要観光地



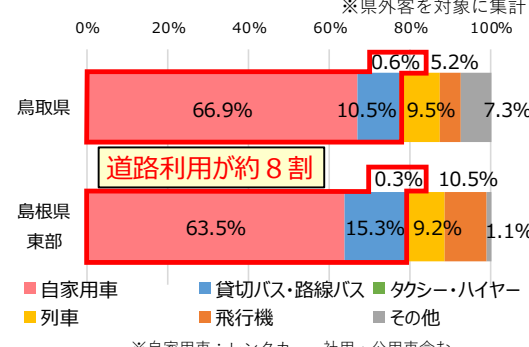
■観光地別入込客数(R元年)



■発地別観光入込客数割合(R元年)



■主要交通手段割合(R元年)



出典：令和元年観光動態調査結果(島根県)、令和元年観光客入込動態調査結果(鳥取県)

※自家用車：レンタカー、社用・公用車含む
貸切バス・路線バス：高速バス、観光バス含む

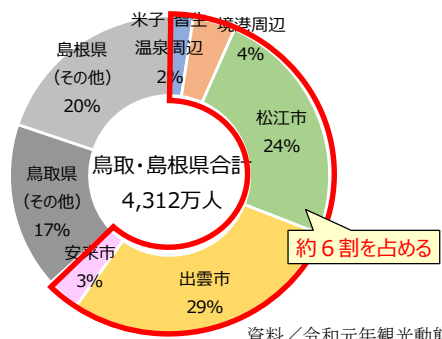
1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-7)観光②

○中海・宍道湖圏域は鳥取・島根県の観光客数の約6割を占め、空と海の玄関口として、出雲市に出雲縁結び空港、境港市に米子鬼太郎空港と境港が立地している。空港の利用者数や境港のクルーズ船寄港回数は増加傾向であり、新ターミナルが完成した境港ではインバウンドを含め更なる利用の増加が期待されている。

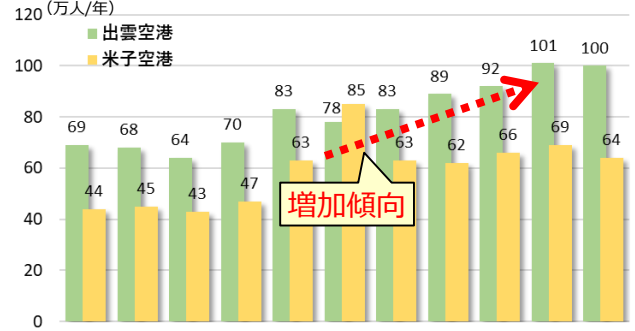
○しかし、現在では新型コロナウイルスの影響で利用者数、クルーズ船の寄港数が大幅に減少しており、利用者の回復に向けて圏域内で連携するための機能軸の強化が必要な状況である。

■鳥取・島根県の観光客数の内訳



資料/令和元年観光動態調査結果(島根県)
令和元年観光客入込動態調査結果(鳥取県)

■出雲縁結び空港・米子鬼太郎空港の利用状況推移

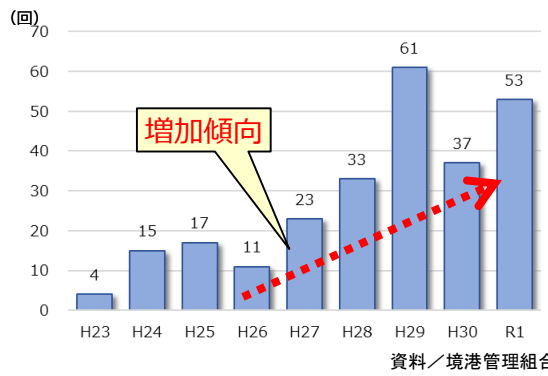


資料/島根県地域振興部交通対策課、鳥取県 交流人口拡大本部 観光交流局 観光戦略課

- 《出雲縁結び空港の主な利用促進策》
- ・愛称「出雲縁結び空港」の採用 ・平成30年に静岡便と仙台便が就航
 - ・平成31年4月26日に空港駐車場が拡張
 - ・令和元年10月27日から神戸便が就航
- 《米子鬼太郎空港の主な利用促進策》
- ・愛称「米子鬼太郎空港」の採用
 - ・平成28年4月から香港が就航、令和2年1月から上海便が就航



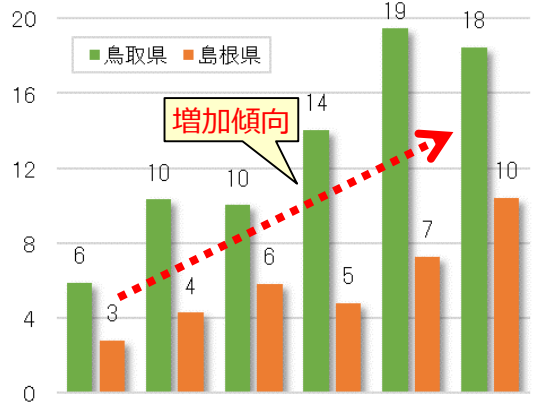
■境港のクルーズ船寄港回数の推移



資料/境港管理組合

- 《境港の主な利用促進策》
- ・令和2年4月に新ターミナル(境夢みなとターミナル)を開設
 - ・2022年秋に新たな米国の船会社のクルーズ船を誘致

■鳥取・島根県の外国人宿泊観光客数の推移



資料/宿泊旅行統計調査(観光庁)

1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-7) 観光③

- 島根半島・宍道湖中海ジオパークは2017年12月に認定された日本ジオパークであり、ジオサイトが広域に点在し、観光地としても有名な日御碕(圏域観光入込客数3位)や美保関(圏域観光入込客数5位)も含まれている。
- ジオサイトを教育や観光活動に活かす動きもあり、探訪会やツアー、フォトコンテスト・スタンプラリー等交流する取組が行われている。

島根半島・宍道湖中海ジオパークの概要

2017年12月にNPO法人日本ジオパークネットワーク (JGN)により認定されたジオパーク。松江市と出雲市の沿岸部等のエリア全域に、全部で67箇所のジオサイトが点在している。

地質地形遺産をはじめとした地球環境の大切さを学び、守り育てながら、活用し、未来に引き継ぐ取り組みを行っている。

■島根半島・宍道湖中海の成り立ち

日本海を形成した地質時代の「大規模な地殻変動」により造られた「島根半島」が天然の防壁となって日本海の厳しい波風をさえぎるとともに、中国山地からの土砂を堰き止め、そして、環日本海交流の「海運拠点となる潟湖」や「肥沃な平野」を形作ることによって「古代出雲文化」が育まれてきました。

出典：島根半島・宍道湖中海ジオパークHP

■島根半島・宍道湖中海ジオパーク(ジオサイトの位置)



島根半島・宍道湖中海ジオパークの探訪会・ツアーの開催状況

- ・2018年10月27日：平成30年度 第1回ジオパーク探訪会
- ・2018年11月11日：平成30年度 第2回ジオパーク探訪会 (華蔵寺と大根島を巡る)
- ・2018年12月3日：美保神社諸手船神事 浦巡りバスツアー
- ・2019年10月12日：第2回ジオ探訪会 (令和元年度)
- ・2019年11月10日：大根島の溶岩トンネル見学会
- ・2019年11月16日：第1回ジオ探訪会 (令和元年度)
- ・2019年12月8日：「去豆の折絶周辺の古代史とジオ」ジオ講演会&探訪会
- ・2020年11月7日：アドベンチャージオツアー (日御碕・高尾山)
- ・2020年11月8日：日御碕自然体感プログラム



出典：島根半島・宍道湖中海ジオパークHP

島根半島・宍道湖中海ジオパーク×島根半島四十二浦巡り フォトコンテスト・スタンプラリー

ジオパークと島根半島四十二浦が一体となった
フォトコンテストとスタンプラリーを実施



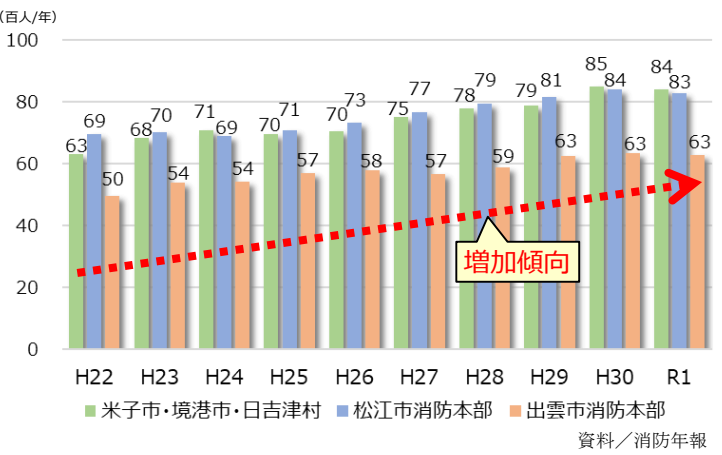
出典：日本ジオパークネットワーク

1. 中海・宍道湖における現状と課題

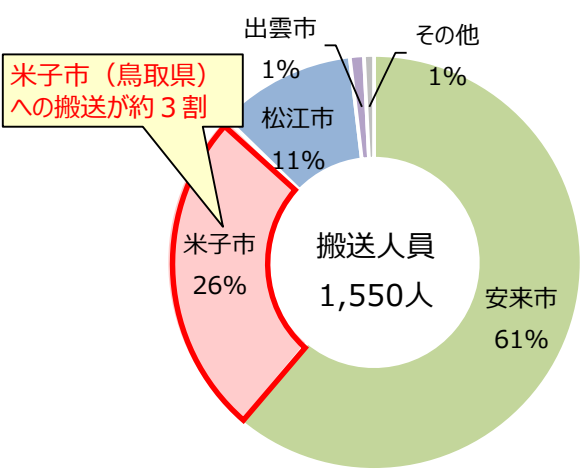
1-8) 医療

- 当該圏域内には、鳥取・島根県の7割にあたる4つの三次医療機関が立地しており、圏域内の救急搬送人員数は増加傾向であり、特に三次医療機関がない安来市においては、米子市との結び付きが強い。
- 島根半島部においては、三次医療機関に30分で到達できないエリアが多く存在しているとともに、“救急搬送時の速達性・確実性が確保されておらず、安静搬送に問題がある”等の声が関係者から挙げられている。

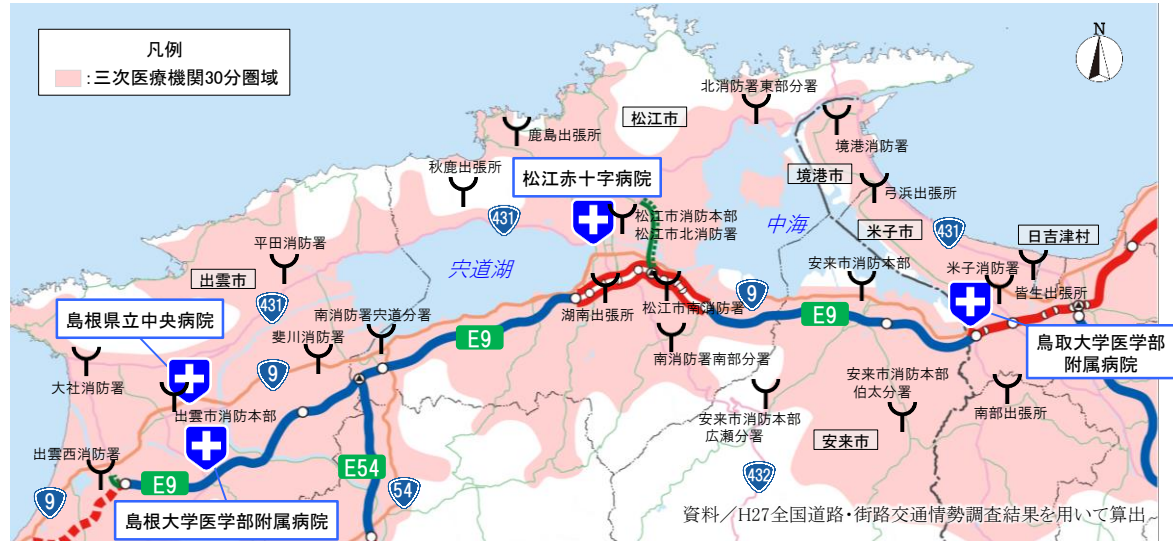
■救急搬送人員の推移



■安来消防本部の救急搬送先割合(H25)



■三次医療機関のカバー圏



- ・救急患者と医師の接触時間の短さが救命率と深く関係している。
- ・ドクターカーを運用しているが、一般道は交差点も多く、ドクターカーの平均走行速度が約30km/hと遅い状況。
- ＜鳥取大学医学部附属病院＞
(R2ヒアリング結果)
- ・搬送中も処置を行う救急車は、揺れを極力抑える必要がある。
- ＜鳥取県西部広域行政管理組合＞
(R1ヒアリング結果)

1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-9) 災害

- 宍道湖等の流域や弓ヶ浜半島沿岸、境港周辺等において、洪水や津波による浸水が想定される地域が広く分布している。
- 昭和47年7月や平成18年7月の豪雨時には、斐伊川、神戸川、宍道湖沿岸等で大規模な浸水被害が発生している。
- 山陰道、松江自動車道、国道431号は、大雪により全面通行止めが発生する等、災害等発生時における代替機能の確保が喫緊の課題となっている。

■ 洪水・津波浸水想定区域

- 洪水(浸水深)**
- 0~0.5m未満
 - 0.5~1.0m未満
 - 1.0~2.0m未満
 - 2.0~5.0m未満
 - 5.0m以上
- 津波(浸水深)**
- 0.3m未満
 - 0.3~0.5m未満
 - 0.5~1.0m未満
 - 1.0~3.0m未満
 - 3.0~5.0m未満
 - 5.0~10m未満

平成22年12月31日～平成23年1月2日
大雪による約300本の松の倒木により国道431号で全面通行止めが発生



平成23年1月1日～1月2日
大雪により山陰道(名和IC～米子西IC)で全面通行止めが発生

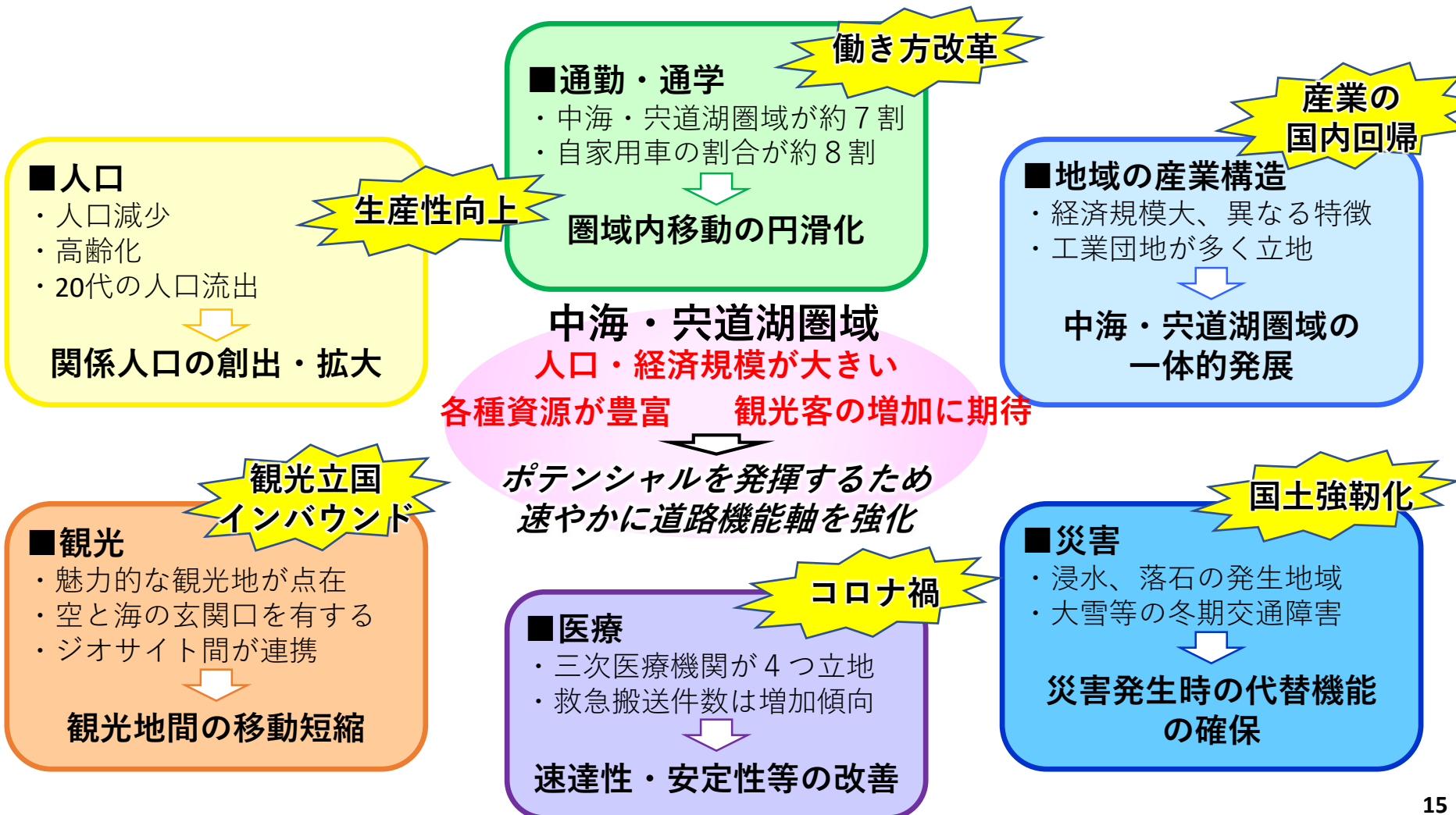
平成30年2月7日～2月8日
大雪により山陰道と松江自動車道で全面通行止めが発生

出典：国土数値情報（洪水浸水想定区域・津波浸水想定区域）

1. 中海・宍道湖における現状と課題

1-10)まとめ

- 中海・宍道湖圏域は、日本海側で有数の人口や経済規模を有する圏域であり、空と海の玄関口として複数の空港と港湾が立地しており、山陰地方の発展を牽引するポテンシャルを秘めている。
- しかし、産業、観光、医療面等あらゆる分野において圏域のポテンシャルが十分に発揮されているとは言えず、高規格道路機能軸の強化が必要である。
- 地域の現状に加え、災害の頻発化・激甚化やコロナ禍等の近年の社会情勢の変化を踏まえると、早急な対応が必要である。



2. 地域の将来像について

2-1) 地域の将来像①(概要)

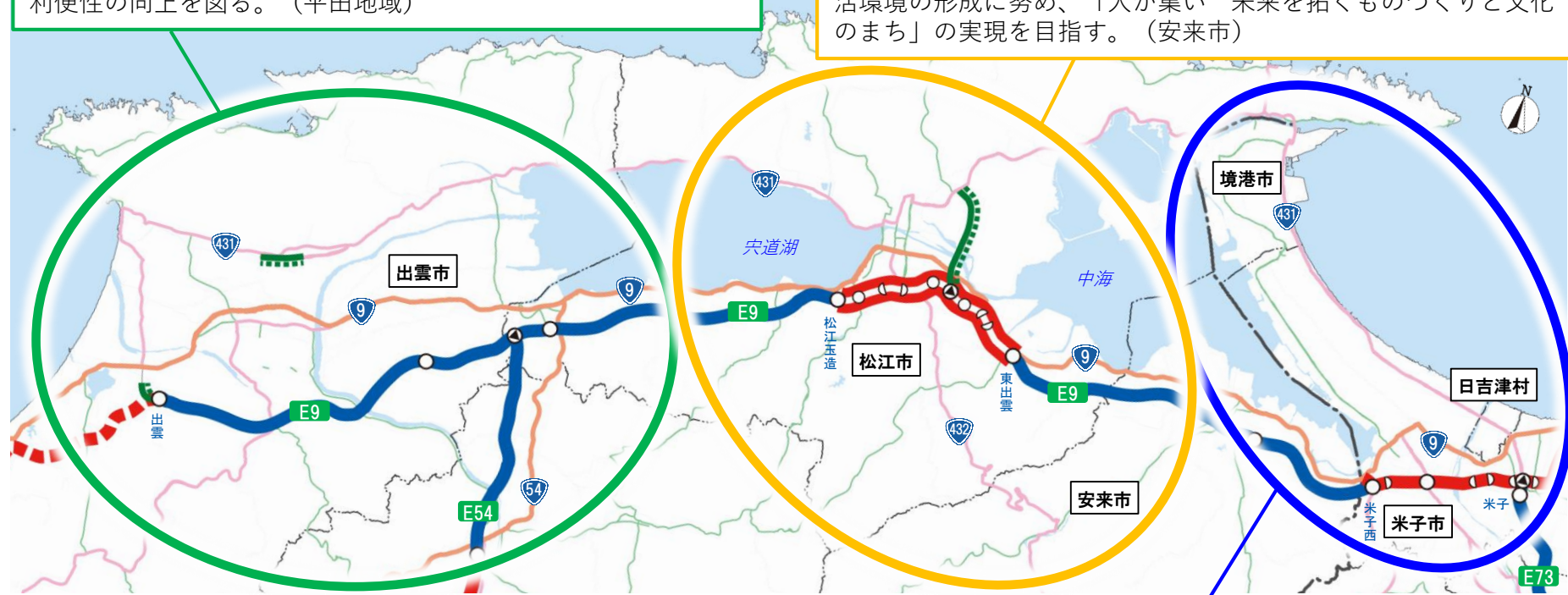
○中海・宍道湖圏域では、出雲都市計画区域、松江圏都市計画区域、米子境港都市計画区域の3つのマスタープランにおいて、将来像が描かれている。

■ 出雲都市計画区域マスタープラン (H20.4)

- ・宍道湖・中海都市圏の中心都市としての高次都市機能の充実を図る。また、集積する高度医療・福祉機能を一層強化連携し、地域全体の医療福祉環境の向上を図る。(出雲地域)
- ・街路事業等による中心市街地整備や企業立地の促進、質の高い住環境の整備を行う。また、日本海、宍道湖及び北山地区などの景観及び環境を適切に保全しつつ、既存集落の環境整備や利便性の向上を図る。(平田地域)

■ 松江圏都市計画区域マスタープラン (H29.8)

- ・宍道湖等の優良な自然景観と松江城を中心とした地域固有の歴史・文化的資源及び玉造温泉等の観光資源を活かした「水と緑、歴史と教育を大切にし、伸びゆく国際文化観光都市・松江」の実現を目指す。(松江市)
- ・活力ある市街地形成と産業基盤整備による都市的機能の増進を図るとともに、自然環境の保全、田園景観に配慮した魅力ある生活環境の形成に努め、「人が集い 未来を拓くものづくりと文化のまち」の実現を目指す。(安来市)



■ 米子境港都市計画区域マスタープラン (H27.3)

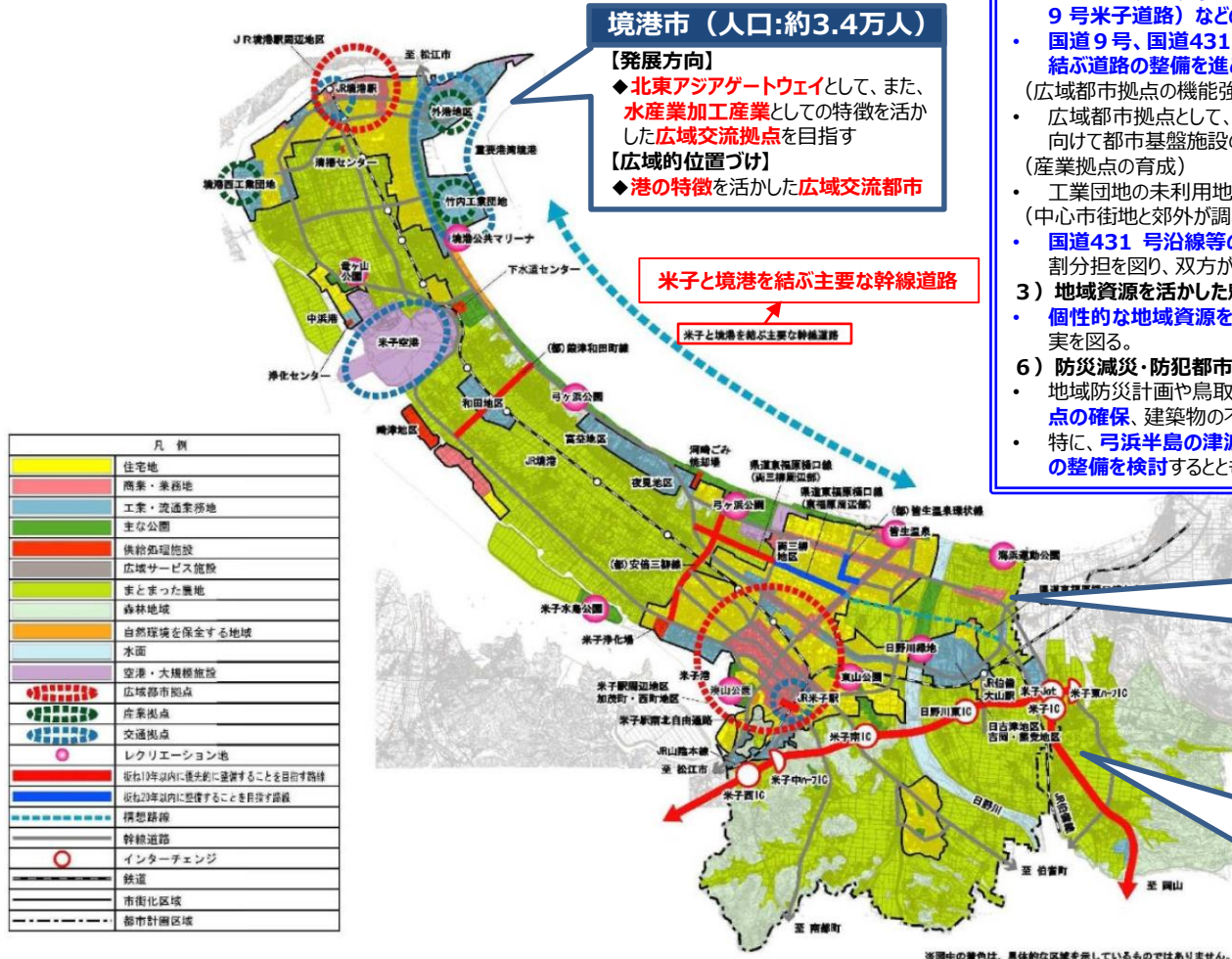
- ・圏域における都市的サービスを提供する中核都市としての役割を果たすと共に、広域交通・観光のターミナルとして圏域内の内外にわたる広域交流都市を目指す。(米子市)
- ・北東アジアゲートウェイとして、また、水産業加工産業としての特徴を活かした広域交流拠点を目指す。(境港市)
- ・住宅・工業・沿道型商業の拠点機能を目指す。(日吉津村)

2. 地域の将来像について

2-1) 地域の将来像②(米子境港都市計画区域マスタープラン)

- 米子境港都市計画区域マスタープランでは、都市づくりの目標を達成するための都市計画の決定方針として、広域的な道路網の形成に資する「米子と境港を結ぶ主要な幹線道路」を構想路線として挙げている。
- 米子市は圏域内の都市的サービスの中核とした広域交流都市を目指し、境港市はアジアゲートウェイ及び境港を活かした広域交流都市を目指しており、日吉津村は住宅・工業・沿道型商業の拠点機能を目指している。

米子境港都市計画区域マスタープラン (H27.3 鳥取県)



境港市 (人口:約3.4万人)

【**発展方向**】

- ◆北東アジアゲートウェイとして、また、水産業加工産業としての特徴を活かした**広域交流拠点**を目指す

【**広域的位置づけ**】

- ◆港の特徴を活かした**広域交流都市**

米子と境港を結ぶ主要な幹線道路

米子と境港を結ぶ主要な幹線道路

<都市づくりの目標>

- 1) 広域的視点での都市機能の強化 (交通機能の強化)
 - 重要港湾境港や米子空港の機能拡張、中国横断自動車道岡山米子線や山陰道(国道9号米子道路)などの高速道路ネットワークの整備を進める。
 - 国道9号、国道431号、県道米子境港線、江島幹線といった地域の幹線道路を相互に結ぶ道路の整備を進める。
 (広域都市拠点の機能強化)
 - 広域都市拠点として、都市中心部の都市機能を強化する。特に、米子駅周辺の活性化に向けて都市基盤施設の整備等を図る。
 (産業拠点の育成)
 - 工業団地の未利用地の有効活用を図るなど、産業拠点を育成していく。
 (中心市街地と郊外が調和した都市構造の形成)
 - 国道431号沿線等の郊外における開発が進行しているが、中心市街地と郊外の適切な役割分担を図り、双方が調和した都市構造を形成していく。
- 3) 地域資源を活かした魅力づくり
 - 個性的な地域資源を保全し存分に有効活用していくことで、観光やレクリエーションなどの充実を図る。
- 6) 防災減災・防犯都市づくり
 - 地域防災計画や鳥取県犯罪のないまちづくり推進計画を踏まえ、**ハード(避難路や防災拠点の確保、建築物の不燃化、防犯環境の構築等)**やソフト一体の対策を進める。
 - 特に、**弓浜半島の津波・原子力災害に対して広域的避難のための都市施設(道路等)の整備を検討**するとともに、木造建築物の密集地において、住環境の防災性の向上を図る。

※道路・交通に関する部分を一部抜粋

日吉津村 (人口:約0.3万人)

【**発展方向**】

- ◆住宅・工業拠点としての機能をもつ
- ◆国道431号沿道は**商業拠点としての機能**をもつ

【**広域的位置づけ**】

- ◆住宅・工業・沿道型商業拠点

米子市 (人口:約14.9万人)

【**発展方向(旧市内)**】

- ◆圏域における**都市的サービスを提供する中核都市**としての役割を果たすと共に、**広域交通・観光のターミナル**として圏域内の内外にわたる**広域交流都市**をめざす

【**広域的位置づけ(旧市内)**】

- ◆圏域内の内外にわたる**広域交流都市**

※図中の黄色は、具体的な区域を示しているものではありません。

2. 地域の将来像について

2-1) 地域の将来像③(松江圏都市計画区域マスタープラン)

- 松江市は宍道湖等の優良な自然景観と松江城を中心とした地域固有の歴史・文化的資源及び玉造温泉等の観光資源を活かした「水と緑、歴史と教育を大切にし、伸びゆく国際文化観光都市・松江」の実現を目指している。
- 安来市は活力ある市街地形成と産業基盤整備による都市的機能の増進を図るとともに、自然環境の保全、田園景観に配慮した魅力ある生活環境の形成に努め、「人が集い 未来を拓くものづくりと文化のまち」の実現を目指している。

松江圏都市計画区域マスタープラン (H29.8 島根県)

松江市

【将来の市街地像】

◆ 本区域の中心核として、高次の都市機能が集積した拠点を形成するとともに、宍道湖等の優良な自然景観と松江城を中心とした地域固有の歴史・文化的資源及び玉造温泉等の観光資源を活かした「水と緑、歴史と教育を大切にし、伸びゆく国際文化観光都市・松江」の実現を目指す。

境港出雲道路

宍道湖

松江市

- ・ 中心拠点
- ・ 高次の都市機能の集積
- ・ 国際文化観光都市

中海

松江玉造IC

東出雲IC

安来市

安来IC

安来市

【将来の市街地像】

◆ 本区域の副核として、活力ある市街地形成と産業基盤整備による都市的機能の増進を図るとともに、自然環境の保全、田園景観に配慮した魅力ある生活環境の形成に努め、「人が集い 未来を拓くものづくりと文化のまち」の実現を目指す。

<都市計画の決定の方針>

都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

① 交通施設の都市計画の決定の方針

a 基本方針

ア 交通体系の整備の方針

県都松江市を中核とする本都市計画区域は、島根県の政治、経済、文化の中心であり、県内外からの交通の要となっている。その交通体系は「国道9号」を基軸とする道路網のほか、JR、一畑電車といった鉄道により構成されており、空、海の発着である「出雲空港」、「米子空港」及び「境港」、「七瀬港」はいずれも松江市中心部から約20kmに位置している。

道路整備については、「山陰道」、「尾道松江線」が開通したのをはじめ、「地域高規格道路 境港出雲道路」など広域的な交流を通じて地域の発展に果たす役割が大きい高速交通道路網を中心に各種道路整備が進められている。

今後、島根県の中心都市として、また、中海・宍道湖圏域の拠点都市としての都市交通体系を確立するため、次のような基本方針のもとにハード、ソフトの両面から計画的な交通網の整備を図ることとする。

○ 地域交流の促進を図るため、「山陰道」、「境港出雲道路（松江だんだん道路を含む）」といった中海・宍道湖圏域の高規格道路による8の字ルートの形成や「尾道松江線」による広島経済圏との連携強化とともに、「国道9号」、「国道431号」等の東西の主要幹線道路を軸として、市ごとに構成した道路網計画に基づき、道路整備を推進する。

○ 災害時に被災地内外の陸送を確保するための緊急輸送道路の整備及び耐震化を進める。また、原子力発電所の周辺地域においては、万が一の原子力災害に対応するための緊急避難道路の整備を推進する。

※道路・交通に関する部分を一部抜粋

2. 地域の将来像について

2-1) 地域の将来像④(出雲都市計画区域マスタープラン)

- 出雲地域は宍道湖・中海都市圏の中心都市としての高次都市機能の充実を図る。また、集積する高度医療・福祉機能を一層強化連携し、地域全体の医療福祉環境の向上を目指している。
- 平田地域は街路事業等による中心市街地整備や企業立地の促進、質の高い住環境の整備を行う。また、日本海、宍道湖及び北山地区などの景観及び環境を適切に保全しつつ、既存集落の環境整備や利便性の向上を目指している。

出雲都市計画区域マスタープラン (H20.4 島根県)

出雲地域

【将来の市街地像】

◆本区域の中心地であり、官公署・企業・商業・サービス等の立地を促進し、宍道湖・中海都市圏の中心都市としての高次都市機能の充実を図る。
また、集積する高度医療・福祉機能を一層強化連携し、地域全体の医療福祉環境の向上を図る。

大社地域

【将来の市街地像】

◆歴史・文化のシンボル空間である出雲大社前町を観光・文化・交流の拠点として整備を図る。

多伎地域

【将来の市街地像】

◆岐久海岸や田儀海岸を中心に豊かな海洋資源を活用し、健康文化の拠点及び出雲と石見を結ぶ観光・交流の拠点としての整備を図るとともに、特産物による産業振興を図る。

平田地域

【将来の市街地像】

◆本区域の第2(東部)の都市核を形成するため、街路事業等による中心市街地整備や企業立地の促進、質の高い住環境の整備を行う。
また、日本海、宍道湖及び北山地区などの景観及び環境を適切に保全しつつ、既存集落の環境整備や利便性の向上を図る。

斐川町

【将来の市街地像】

◆県内最大の工業拠点として各工業団地への企業誘致を促進するとともに、魅力ある住宅地の供給を行い、就業機会の充実を図る。また、優良な自然景観と伝統的文化財を活かして、保養・健康・遊機能の整備を図る。

<都市計画の決定の方針>

都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

①交通施設

a 基本方針

ア 交通体系の整備の方針

本区域は、松江圏都市計画区域とともに経済、文化の中心であり、県内外からの交通網の要となっている。その交通体系は北側に国道431号、ほぼ中央に国道9号がそれぞれ東西方向に並行に延びており、この2本が本区域の骨格を形成している。鉄道網においては、JR西日本山陰本線が国道9号に並行に延び、一畑電車は北松江線と大社線がある。路線バスは出雲市駅を、生活バスは雲州平田駅を中心に放射状に延びている。また、空の玄関口として出雲空港を、海の玄関口として河下港を有する。

道路整備については、「山陰道」、地域高規格道路「境港出雲道路」など、広域的な交流を通じて地域の発展に果たす役割が大きい高速交通道路網や、国道9号の慢性的な渋滞解消のための国道9号バイパス等の各種道路整備が進められている。

今後、これら広域交通網の整備と都市活動の活性化に伴い、自動車交通を中心に交通需要は増加していくものと予測される。このため、県の中心都市として相応しい広域交流都市圏をめざし、効率的な交通網を確立するため各種交通手段の機能分担に配慮しながら、円滑で利便性の高い都市交通が確保されるよう次の方針のもとに、総合的に交通体系の整備を図る。

本区域の交通体系は、次のような基本方針のもとに整備を進める。

○広域道路ネットワークの確立

「山陰道」と連携した山陰地域の拠点にふさわしい広域道路ネットワークを確立するため、地域高規格道路「境港出雲道路」、一般国道及び県道等からなる広域幹線道路網の充実を図る。

※道路・交通に関する部分を一部抜粋

2. 地域の将来像について

2-2) 圏域全体での取り組み

○「第2期 中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略」において、県境を越えた広域連携により、圏域人口60万人の維持が基本目標となっており、交通ネットワークの形成として「8の字ルート」が位置付けられている。

- ・1994年6月 中海圏域4市連絡会議発足
- ・1995年2月 中海圏域4市連絡協議会発足
- ・2007年7月 中海圏域4市連絡協議会を改組し、中海市長会を設立
- ・2008年4月 **出雲都市計画区域マスタープラン策定**
- ・2012年4月 中海市長会を発展的に改組し、中海・宍道湖・大山圏域市長会を設立
- ・2013年3月 中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン策定
- ・2015年3月 **米子境港都市計画区域マスタープラン策定**
- ・2015年7月 中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略策定
- ・2017年8月 **松江圏都市計画区域マスタープラン策定**
- ・2020年3月 第2期 中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略策定

< 中海・宍道湖・大山圏域市長会の構成 >

構 成 員 : 米子市・境港市・松江市
・出雲市・安来市

オブザーバー: 大山圏域7町村 (日吉津村
・大山町・南部町・伯耆町
・日南町・日野町・江府町)
(並びは総務省全国地方公共団体コード順)

交通ネットワークの形成として、「8の字ルート」等の早期形成を掲げている

鳥取・島根 中海・宍道湖・大山圏域市長会 第2期地方版総合戦略

位置づけとねらい
県境を越えた広域連携
 ●日本海側を代表する拠点
 ●東アジアのゲートウェイ
 ●定住人口の拡大および山間地方における人口流出のダム効果

基本目標
圏域人口60万人の維持
 ●産業集積による仕事・雇用の創出
 ●地域資源(ヒト・モノ)の発掘と磨き上げ、そして国内外への発信
 ●世界に誇れる歴史・文化のさらなる活用

1 国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成

- 東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用
 - ・国際定期航路の活用(空路:米子/香港、上海、ソウル便)(海路:境港~東海~ウラジオストク、境港~釜山、境港~上海航路)
- インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大
 - ・インドでのプログラミング言語 Ruby を介したSE人材の育成・確保
 - ・輸出や交流人口の拡大
- 圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
 - (安来の特産製菓技術を生かした食品関連製造業、境港の水産加工業、松江のIT産業、米子の医療、出雲の電子部品をはじめとする製造業、大山の農畜産業)
 - ・地域を支える「モノづくり、企業への支援
 - ・地産外消の推進
 - ・圏域内高等教育機関との連携
- 国内外およびインバウンド観光の推進
 - ・交流し環境整備の推進
 - ・観光素材の磨き上げと情報発信
 - ・観光地づくりのための組織体制強化

2 未来をひらく交通ネットワークの形成

- 2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成
 - ・境港・大山航路、境港・米子航路、江府三次道路、米子道および山陰道の4車線化等の早期完成
 - 重要港湾境港の利便性向上
 - ・港湾施設および国内外航路ネットワークの充実
 - 新幹線ネットワークの整備
 - ・中国横断新幹線(自備新幹線)、山陰新幹線の整備促進
 - 航空路線の充実
 - ・海県と連携した圏域内(出雲・米子)空港の取存路線利用促進と新たな定期路線の開設
- 自然環境の保全と活用
 - ・中海・宍道湖・大山ならびに日本海、島根半島・松江(人)の創出
 - ・次世代担う人材育成
- 健康長寿圏域の形成
 - ・圏域内医療・福祉機関との連携
- 圏域内公共交通の利便性向上
 - ・様々な需要に応じた交通サービスの検討

3 恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

- 圏域への移住・定住の促進
 - ・U/Iターンの取り組みの推進
 - ・圏域内10の創出
- 自然環境の保全と活用
 - ・中海・宍道湖・大山ならびに日本海、島根半島・松江(人)の創出
- 健康長寿圏域の形成
 - ・圏域内医療・福祉機関との連携
- 圏域内公共交通の利便性向上
 - ・様々な需要に応じた交通サービスの検討

住みたくなる圏域づくり

まんなか 五和館

県境を越えた広域連携による住みたくなる圏域づくり

海外との交流拡大による地域経済の活性化

海路・空路での東アジアへの定期便

ウラジオストク、ソウル、釜山、上海、台湾(台北市)、インド(ケララ州)

インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流

東アジアへの定期便、モノとヒトの交流の活性化、輸出入や観光ビジネスの拡大、地域経済の活性化

市場拡大のほか、IT人材等の育成・確保などを目指し、インド(ケララ州)や台湾(台北市)との交流を強化していきます。

インドからのインターンシップ事業、台北市「建國花園」での圏域の産業・観光PR、重要港湾・境港のクルーズ船寄港

中海・宍道湖・大山圏域市長会

都市部へのアクセス性の向上

●東洋・大阪等の大都市圏へのアクセスが容易な2つの空港
 ●山陰・四国への高速道路も整備

本圏域は自然豊かで穏やかな暮らしを満喫できる環境であり、都市部へのアクセス性の向上が実現すれば、圏域への働きを加速!

山陰新幹線、中国横断新幹線(自備新幹線) 圏域への働きを加速!

山陽(広島)・西瀬へ、山陰(岡山)・西瀬へ

心豊かに、安心して暮らせる環境の活用

①充実した子育て環境
 圏域の特産児童はゼロとなり、子育てしやすい環境が整っています。

②国内トップレベルの医療・介護体制
 高度医療 先進医療、国立大学附属病院 2か所立地、ロボット支援手術(鳥取大学附属病院)、1人1人対応 医師数 医師数増強、1人1人対応 介護人材確保 介護人材確保、約1.6倍、約1.3倍

③豊かな自然や歴史文化に恵まれた地域
 国立公園大山ならびに島根半島・宍道湖中津ジョパークなど自然環境が豊か。また、弥生時代の遺構、たたら製鉄や城下町の風情が漂う歴史文化が息づく圏域です。

国立公園大山

2. 地域の将来像について

2-3)まとめ

- 各都市計画区域マスタープラン等において、広域交流拠点や高次都市としての機能の充実、産業集積等による圏域人口の維持といった将来像が描かれている。
- 中海・宍道湖圏域の将来像を実現するためには、「山陰道」や「境港出雲道路」、「境港米子道路」等による『8の字ルート』の早期形成が道路整備方針の骨幹とされている。

■中海・宍道湖圏域の将来像(まとめ)

出雲都市計画区域

【地域の将来像】

(出雲地域)

- ・宍道湖・中海都市圏の中心都市としての高次都市機能の充実
- ・地域全体の医療福祉環境の向上

(平田地域)

- ・中心市街地整備、企業立地促進
- ・質の高い住環境整備
- ・日本海、宍道湖等の景観・環境保全
- ・既存集落環境整備、利便性向上

【道路整備方針】

- ・山陰道と連携した拠点にふさわしい広域道路ネットワークの確立(境港出雲道路、広域幹線道路充実)

松江圏都市計画区域

【地域の将来像】

(松江市)

- ・宍道湖等の優良な自然景観と地域固有の歴史・文化的資源及び玉造温泉等の観光資源の活用

(安来市)

- ・活力ある市街地形成と産業基盤整備による都市的機能の増進
- ・自然環境の保全、田園景観に配慮した魅力ある生活環境の形成

【道路整備方針】

- ・地域交流の促進のため、中海・宍道湖圏域の高規格による8の字ルートの形成
- ・市の道路網計画に基づく整備推進

米子境港都市計画区域

【地域の将来像】

(米子市)

- ・都市的サービスを提供する中核都市
- ・圏域内の内外にわたる広域交流都市

(境港市)

- ・北東アジアゲートウェイとしての広域交通拠点

(日吉津村)

- ・住宅・工業・沿道型商業の拠点機能

【道路整備方針】

- ・国道9号、国道431号、県道米子境港線等の地域の幹線道路を相互に結ぶ道路整備

圏域全体での取り組み

【地域の将来像】

住みたくなる圏域づくり
”圏域人口60万人の維持“

- ・国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
- ・未来をひらく交通ネットワークの形成
- ・恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

【道路整備方針】

2つの湖を介する「8の字ルート」の早期完成
・境港／出雲道路、境港／米子道路、米子道及び山陰道の4車線等の早期実現

3. 中海・宍道湖圏域の道路ネットワークのあり方(案)

中海・宍道湖圏域の特徴

- ・日本海側の経済圏域でも有数の人口集積
- ・島根県・鳥取県の総生産割合の5割以上を占める
- ・出雲大社等の日本有数の観光資源を有する
- ・2つの空港と重要港湾境港の交通拠点有する
- ・多数の分譲中の工業団地が立地する
- ・三次救急医療機関が4箇所立地する

中海・宍道湖圏域の地域の課題

- ・地域の特性を活かした一体感ある圏域形成
- ・圏域が一体となった観光振興
- ・圏域内での産業連携
- ・救急搬送の速達性・確実性の確保
- ・災害等発生時の代替機能の確保

社会情勢の変化

生産性向上	働き方改革	産業の国内回帰
観光立国インバウンド	コロナ禍	国土強靱化

中海・宍道湖圏域の将来像

- 住みたくなる圏域づくり
“圏域人口60万人の維持”
- ・国内外を視野に入れた力強い産業圏域
 - ・未来をひらく交通ネットワーク形成
 - ・恵まれた生活環境を生かした圏域

- 出雲都市計画
- 松江圏都市計画
- 米子境港都市計画

中海・宍道湖圏域の道路ネットワーク将来像

- 地域資源をつなげ、圏域の発展を促す高規格な道路ネットワークの早期形成
- ゲートウェイ機能を発揮するための高規格な道路ネットワークの早期形成
- 災害時にも圏域が機能するための高規格な道路ネットワークの早期形成

	高規格幹線道路(有料開通区間)
	高規格幹線道路(無料開通区間)
	高規格幹線道路(無料整備計画区間)
	地域高規格道路(開通区間)
	一般国道(直轄管理区間)
	一般国道(直轄管理区間外)
	主要地方道

- ★ 主要観光地
- 工業団地(分譲中)
- 工業団地(分譲済)
- ⊕ 三次救急医療機関

